

# 逆境に立ち向かう企業

## ジャパン・リスク・スペシャリスト

# 「再保険」でリスク管理

新型コロナウイルス感染症拡大で企業は多様なリスクを再認識した。ニューノーマル(新常態)で行動様式が大きく変わる中、企業は規模の大小を問わずあらためて自社のリスクを分析し対策を講じることが急務だ。再保険の手配や再保険業務を手がけるジャパン・リスク・スペシャリストの荒木直義社長に事業形態によって異なる各社各業のリスクにどう向き合うべきかを聞いた。

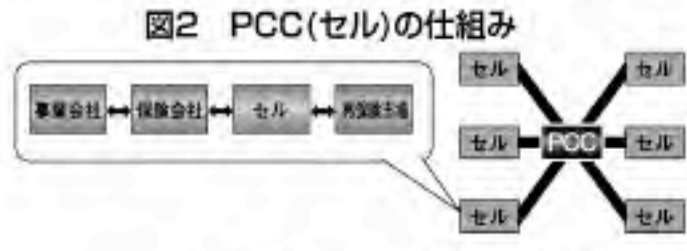
「企業活動に備わり、管理、どちらかの負担、地域で各地域の業法にリスクが多様化していま、大きくなりすぎた。従って運用する。子会社」

「自然災害やサイバ」 担の管理を企業側が担 リスクを管理するた  
「攻撃、感染症、生産」 み込んで行うキャプテ 有事が起きなければ自  
物の回収・賠償と企業」 イブがある。これは保 内容を組み立てて、  
を取り巻くリスクは多 険会社が引き受けた自 有事が起きなければ自  
岐にわたる。事業が拡 社の保険を再保険とし 社が支払う保険料の一  
大するにともなう想定き て引き受ける海外自社 部が子会社に管理され  
れる損害額も大きくな グループの保険会社組 る。しかし法人設立・  
る。未然に防ぐことが 備。設立が認められた 運用に費用・労力・時  
最善だが排除しきれな とは不可能だ。抱える  
リスクと向き合い、管 理する必要があり、リ  
スクに備える金融的な 手立てとして保険があ  
るが、平時の高額な保 険料負担は企業の財政  
にとって重荷になる」

リスク管理と財政



社長 荒木直義氏



間を費やさなければならぬ。この機能を備えるシステムですか。価格が簡略化された手続で利用できるシステムに「Protective Cell」に設立されたキャプティブで備えられた「Protective Cell」が、機能的使用できるセルと呼ばれる「PCC」である。

## 資金有効活用 中小に提案

を借り受けて活用するへの備えと資金の有効活用、さらに有価証券のPCCだ。キャプティブで必要の労力やえた資金を有利に活用する時間を大幅削減し、費をすることが出来る。保険用はキャプティブの約やリスクについて主体3割程度に抑えられ、的を効率的に運用している。各セルはそれぞれ中小企業にPCCを独立し保護されている。広く普及できれば、企業は、会社の契約・資産経営の一助となれ、金はそれぞれ分業管理する。

「PCCの導入が効果的。海外子会社設立と果敢な提案だ。」「まず保険料が高いため一部大手企業に頼るという理由でリスク限られていたキャプティブに気づいていないが保険イブの機能を、費用対手配できていない企業効果を高く中小企業にや保証付で提供を提まで重要の備えを付けた。供、そのための準備ものがPCCといえ、金を蓄えている状態にある。」

「20年にマレーシアを設立した。資金をたが管理するのでPCCを設立し、は、リスク管理をPCCを用いた再保険の仕組みに切り替えるはアジアで唯一設置が、財政面での大限められるマレーシアを助けてなる。行動の経済特区にあり、時・労働様式の変化に乏しがなく、ヨーロッパと大きな差を有する。PCCと比較して、企業は自社を取り現地の人件費が安、り、リスクの低減し、価格競争力を保持、に最適な時期を迎えたサービス提供が、いる。財政面に配慮する。日本企業のPCC、たりリスク管理の新たな導入には最適だ。PCC、選択肢としてPCCのCを活用すればリスク提案を進めていく。」